

明治二年 極秘

下長井小國郷削地御繰替
之件

己巳九月十日刻六月晦日記事



早稲田大学図書館

文書 27

D 19



二十六年 九月二十八

五月十日晴

今土州藩より深川平清に會飲し約ありし事即内
より彦田六花片山提督池田由用へ誠下し年杪復
評最良度致す可出掛と云ふ米沼内村洋庵
平田道策到着中々々親大病身者初少暇
然々極中來唯身是く措而る形修計あり有
去月廿日大膳禰いれし未より廿八日迄又打返
衰弱極の苦痛を以時必し腹中虫蝕害の者
之を驅るに珍密を以て免角衰弱と恐るに致
此節刻々の困り申す端々顛末より未會候可

日出頭指下系多也詳悉此節也醫用忍乃以
得共看病所西身能分束情。而一處之七余儀
情實亦酌之於政府。出之在評判之。其後固
可成者。在評議之內。在田片山池田。他出。亦
小川。佐側。尤之。細川。潤之。而之。約之。踏之。他出。其惡。致
可謀人。多之。到此。進退。維也。先之。少。處。之。俱
不。似。散。族。懷。政。道。中。先。觸。駭。債。債。懷。中。哲。尊
彼。所。多。調。遣。政。吳。也。已。子。物。書。技。中。考。及。足
可。政。家。木。滑。六。老。而。解。而。舍。相。也。出。少。也。之。際
以。情。案。之。察。乃。以。得。長。此。節。重。大。之。以。用。之。為。在

師暇成下終旨江作出子段之んお後一以由節
且忠存而全古未之隨相成平日直身父母也
懇親中折之兼之亦康公之也忠勤之飽也我亦
敬服於之得也此為之亦初氣也付之也用之為也
亦也隨之也却之亦存懷也思之也事之也推察
之也懇切之誠之也笑之也我亦如之不肯之也其留
亦成之也越之也其感佩如血淚教行木骨之也
亦及之也哭泣改之也未之也回道真師殿之也
滿

師家光中傑聖前殿亦達た通

五月十日

一 金小判一枚

公議人副役
宮島誠一郎

右者此度親大病之由、來遠境一入痛心之程
深々

御怒察法成下早速者病御暇法成下度法
思召山洋共當表外亦女始の機密之由用向
頻繫有之儀

御情察之於の程法為

思召事之由洋共此度之由暇法成下由依之為
御藥種料右之通法成下の事

右之通古書之書感心

君上九実之思召由法成立程指古趣者古以名余
儀由名由、亦事之得中一際奮者抽忠結の状
事也到以事之是限之感涙膝上涙事
七日事有感飛仰亦表之由古由藥種^料并古書
付之古書之由

庄田片山地田相四時土州居り歸舎山川當切
回古物印

十一日陰

赤坂氷川明神、入於入法事指法了親之姓名

乃年齡と云徳ウシテ於此と一畫其病氣平愈
之也祈禱之社人々皆於明於祈禱之也此等
之請と云云換中守等 田舎

佛小姓頭日法

官中如平本即刻羽織袴之也殿内

御前之御態一切之御辭歳六実以御

實加之極多御態御辭歳六身之御

有改法請之上御前を良く

佛小姓頭より云云此等御前後始終御

命之云云世演説せし我儕石首頭と

君慮を勞せし中平^茲到る九膳才妙

晩来甘寝考謀極尾今井横濱より御替御

買之身鈴木安兵衛談合より安兵衛大

十二日晴

午後池田内伴内宿殿野謙中を訪ら

頼廣二市を訪不在宅

三條殿諸大夫西京台より長中身尋訪不在宅

中井弘花を訪不在

氷川明神より諸佛祈禱之也字并由護符也

清木明より并吉次之身宿許より美

嚙托三年

十三日晴

甘粕參謀以前より土州先利恭助に入懇と結ぶる
中旨の旨午後同伴お尋事印内と旨合晩方と
お話す酒と申す吳と後と誤り甘粕お廷規知
連子お廷規論議先利大と服すお佐産物と紙
と分贈せり暮方ゆ舎金申すお廷

先利諸子と旨長州杉孫部と多お打り薩州内田伴
と助多と旨昨日西郷吉と助兵隊と引纏めお出府政
と中右と先達と西京と多迅速と兵隊と出候三

西郷出京

藩^江吉達有と事速出兵と西京と事速東京
出府候と申す未だ東京と事速と何事と此
少波多と事速と却と此表と出用多と勝手次平
歸と事速と事速と不帰と事速と相館と
出兵と事速と願と事速と十と事速と確報と
以事速と事速と進退と事速と命令と事速と何事
と事速と西郷大不平と事速

と事速輔相議定と事速與と三職と^{和任}三等官以上と事速十八
と事速於此と事速お廷と入札と事速以公論と事速お廷と事速三條
と事速公輔相と事速入札と事速四十九人と事速お廷と事速九人と事速お廷

三職入札

卷五上余程進退折之書

十四日

神奈川縣之河濱之市罪人自次玉許之送之也
今井吉次傳書家書之批

今之雨天有是舊約少之園口秋落如月之園
佳期不可失日行之ありあり小川之側元日行集
鍛冶橋河岸園之寫去在在為一柱為字、事
あり柳橋舟宿針田屋日多交靜園橋口正一亭
先刻より後結合此多神園口之來、赤川長橋
川内あり對酌園口余程慷慨在、駿河遠に飢

奥羽首謀之教許

饑之神多仍為真封土之返上政人民天朝之救
此橋是非駿河園論一渡政之橋駿河の中老一為九
根多之時、少之奉職給在由有論議之、矣、
皇皇海上之葉、舟の如し、
訪酒唱酬後時黑水瀾漫烟月、景有、面白、

樓頭把酒對鷗羣世事紛紜身厭聞不恨京城知
已少墨江烟月又逢君

遊、飛輿芳原の到、一興を添へ園口の先乙海印地
旨軍務官に於て奥羽首謀之裁許也

十五日

昨日重役軍務官に呼出交首謀臣都長川出
裁許出違巧く其存命を以て刑首一に作甘交雖
落命其罪不可許家名断絶被作也

仙臺 坂英刀但木去他 刑首

南部 楠山信俊才村与人 刑首

山形 水野三帝意 刑首

村上 一人 刑首

関者 一人 刑首

一毛利恭助言被召出以行昨日刑令交愈集御
之申中守交午故二字以才也七倍重役御也

首謀者 六人

山口川去相送了本頼系より申御殿に案内
庄田六苑周廻酒飯蔵下

一鬼部首謀一條と先利の内証より家表向て

遵奉政令内臨に証より元量よりありて上

二是非一旦立派に遵奉政令家名割り大立に家

表然事に至り賞受未と政令より何より老見

何と智下何分と幼者より老見

毛利幕方退殿

伊波片山先生曰道中海流成に身懸出極中本
於此小納戸出酒肴被成に飽ちて戴り事

一 飛脚米澤より到着家書お達、交親平愈々向
以書状即ち重事之に到来此始而安心美之論
有、之方、君慮を、年増、交、之、報、之、接、
早通木滑六老日、右、之、吹、意、能、改、衣、木、滑
大喜、之、在、躍、之、吳、片、山、先、生、之、此、年、酒、之、出、
吳、古、海、海、軍

一 去、十、日、大、町、會、津、屋、より、出、火、折、首、東、風、烈、火、大
火、之、威、以、あり、木、之、焚、而、粒、戸、之、延、燒、之、何、處、之、
消、火、之、不、お、分、甚、熱、危、あり、片、山、松、之、燒、火、不、可、お、
一 吹、乃、駿、河、守、頼、由、家、先、本、間、孫、郎、早、退、之、に、到、着

竹股早松

十日出立、之、一、駿、河、守、頼、由、君、去、也、親、願、一、条、あり
一 町、首、孫、之、裁、許、一、条、之、身、白、物、子、早、松、之、談、也、
竹、股、撞、平、飯、之、列、熱、ハ、未、之、撞、ハ、外、出、之、改、一、交、保、
坂、之、削、首、之、早、松、之、失、顔、色、自、分、也、之、早、松、有、の
飛、お、交、之、早、松、之、来、り、即、内、之、り、之、也、也、

十六日

奥羽省謀裁許之書付、後、之、船、越、洋、之、助、也、
之、病、院、より、未、之、不、歸、一、宅、之、九、段、坂、之、移、住、也、
三、條、殿、之、身、森、寺、之、和、守、之、所、久、一、振、之、お、也、也、
昨、年、浪、華、決、別、以、弟、報、難、之、國、情、之、話、也、也、

森寺之再命

森香の嘆息

昨午閏四月廿三日、三條殿隨後江戸下り、其以
來戦争仕舞十月まで出陣いれ、若松と板垣
一同出張之間機心を以て九段江戸に生れ
得ず、其時、乃と國旗降し、極難苦を以て
最初大坂を滅し、松本、赤松降し、入於延
吉の身、可保あり、仰、於延、河津、左膳、元
打、於延、誠、可、東、柳、頃、俄、奥、羽、之、聲、伏、大
内、人、參、謀、暗、殺、奥、羽、白、血、争、時、乃、事、密、
か、身、以、て、其、誠、之、友、心、を、お、終、り、年、を、遠、幕、
尚、其、願、望、の、餘、若、松、復、伐、才、一、可、出、大、藏、

西郷参上職ノ辭
兼附書

毛利 在井兼輔

三首級奉け第二番御志成し、白旗一の首級を
奉り、決心あり、此より奥羽後援、扱代再分上、
奏聞、由、献上、し、旨、を、お、り、意、外、に、身、に、
於、後、日、後、諸、酌、の、政、を、お、仰、し、別、
毛利、参、上、訪、下、此、西、郷、松、と、參、與、を、辭、し、
館、に、一、大、隊、引、連、出、兵、政、に、し、仍、も、毛、利、兼、
輔、年、を、西、郷、松、と、參、與、を、辭、し、
人心大に疑惑し、其、薩、藩、人、を、先、き、
甚、多、ッ、ル、イ、節、風、評、ち、
ソレ、ハ、ケ、シ、カ、ラ、ン、弊、を、滿、ち、
並、と、力、を、持、し、

江戸ホルト日本大辞書
論

文心志を長崎
早稲上表を因
巧人を

築地より中井孝純と訪回會神奈川判事成
時横濱より英のキヤンセルリヤト事其面書
日本之弊風一社大談論起す彼の曰く是と云
京都の天子あり江戸の將軍あり法國の大名あり
何處も日本や支離辭體外ならず来りて是
を自らせんと思せしむるを其論に
總あり王政一新を始む日本政府が出来たり
耳目一新を識論より人先年横濱を英公使
の焼失より本村道平の事件の始り人あり當時危
殆頃の中在國より大北より報を傳へ自ら危殆

不日徳川より江戶博覽會余八兆を以て行
けり事ありし人あり今日本は其善道なり

中井孝純目鏡を借て仰

孝純中井の隣家あり其目不在於又其身あり

と仰て仰て仰

中井借用し写真と湯洗を其手

十七日晴景

今更なる来約あり徳甘粒口道毛利恭助と語り
松本屋の舟を命じ深川日あり對面臨愉快
と覺ゆおりの仰りて其趣あり

叱咤勒兵亦徒然當時成敗付蒼天三及棹轉
深川水人在烟花深處眠
毛利今日行政官之出頭薩長土肥四藩
重臣一同列座三條公より先達の由尋くは、郡
縣之義千載不拔之区也、ふや、其も現令
大體止るは、是非大改革と云ふ事、おれ儻ら
し、の四藩より、カキ、我も、此も、不拔、の由
心之、所、識、こ、と、も、カ、キ、の、事、は、不、安、心
を、法、爾、の、事、は、何、れ、も、あ、れ、唯、の、進、の、由
不、安、断、の、事、は、不、安、の、事、は、不、安、の、事、は、

十八日晴

と、日、於、舊、御、本、北、流、親、兵、調、練
天、隨、被、出、諸、侯、方、も、此、陪、隨、被、作、白、折、身
君、上、明、半、時、此、冬、内、法、滿、一、統、の、由、菓子、成、成、の
一、午後、甘、糖、池、田、日、道、伊、西、子、其、其、シ、ハ、ル、ト、日、年、の
鶏、卵、も、之、を、産、み、出、す、安、公、使、館、も、あ、る、引、取、ら、る、る
事、も、仍、由、名、刺、差、出、す、竹、兵、也、名、和、何、館
来、り、蒲、萄、酒、也、差、出、一、矣、夫、も、商、法、を、誤、七、半
吹、御、進、市、三、人、の、酌
十九日晴

本居宗家元日毛州河見舞々交大石跡荒々始末
古多交交知時了
此道習小座々訪園代治部中里名印細島指字
津江藤太身の日始了
小川内側荒水先紙到來
片山登十九男會津表々早追々着如々
降伏人差紅方一件々三宮耕庵々軍務
官用向者々大村益次郎香川教三々用謀也
且茲松表々銃器類賣拂々如何々身内々
出也

一騎河守損々酒蔵成小於六老小座行載
方所火平々大火の不蔵元焼町々内側幸島高野
表々燒下角々片山先生生年陰月九

二十日

本居宗家元天機出何片山先生安内有々
小川内役成六人身寄附益江作甘正加增百石正
歲六晚方祝山年深栗正瀧田角細島上水年
水高江作甘正正正祝之新印中大振角

廿一日陰雨

首謀出裁許一案在田六老物不々是歳

小川源々六人年寄詳命

知子離杯初昨夜宿醒行又北重收策子啓
死之坊 屋飛樣午後秋月公日改更
在內卸之振舞之招甘松參謀木滑六光
小川新六光并小生系子行掛土州武藏
志壽山切身上評判改之端之節 延之
根本之勅搖混難之已之先十者三等官以上
入札之勅輔相議定之命与古決定以來之甚滿騰
いけ一中之実力也他官下級之黜陽位之均等
廻之之成以初後藤若中少之之矣中因却之也
因之今少之勅招極也

在內轉封延期

在內采沃雨滿交際

名利面會相館賊艦敗軍之報知有之極瀆
之顛末記載之書物到來之借田改之
晚來在內帥之命之勝山檀四郎不快之卧奪
所身之見舞之若松表之轉封延期之命之大
慶之玉之層之長力之極忠告之及之
公用方石并武勝宅之變官之有之生之就之茶
蓋菓子之出之平白酒之極吸切之有種之算
長沃多膳加藤石并之於茶一及之持相伴之十時
上情飲由途雨漸之降之極
君上九時十月傳由殿

二十二日雨

行政官中呼出之概矣地開拓并皇學子出取之
依下問書二通出取之敵

本林寺大和守書快差出之九之

一翰拜呈仕梅雨鬱陶者亦症之受養會証也
王事之難者亦多矣為心身似笑以月身
殿之振之相類得相話証者身故之
弟身之候別考之集會昨身浪華以
末之亦情亦温也至秋之事之身相輔相
公之輔佐也多忙之職物身相察以得共身非

罪言午後乃出候合陪杖法伴付友近之

之身懇懇物之付拜候之伏之納脚之之身者

而已故首不真 官島拜

本林寺損

為身之心少出障也之少出障也之少出障也

為身之心少出障也之少出障也之少出障也

不在也之少出障也

廿三日始

朝日新書之少出障也之少出障也之少出障也
与身之少出障也之少出障也之少出障也

波るり水。

山川六光しき忍秋の 君上は乃入の身之流星なり
年甘粒池田の横濱行仍白鳥寺集會の成を
甚夕不都合なり

午後二時より森寺と誘引し海老と廣河終
助事話中より先キ少集事格中少舟木枕町醉月
より東に生憎此頃と風雨不天氣高由奥不様
一切を者らんと思ひ一切断り此れに在れ自
失く交り來るも余り舟に命じ深川平清に年
庵を不日断れお國却に次才火去藤者に命じ

深川平清會森寺

藝妓多三輩事と松暫時醉談り浮代強んじ不丹
歡初更鳩を命じ來ると返す自から金布より舟
と命じ境留河岸と渡おせ來り舟御おと咄身大
切草の虫跡と継徳ともの心徒世方と認め
成勢風流いらん方か

廿四日晴且雨

上利茶助と訪金中より歸り無沙汰を跡を折る勝房
州より尋ぬる臨河より舟府をこし舟府より知
る格中少來り新宿會合日毎一酌
新豊美酒醉其風人在溪花登岸且脱履裳

勝房州在版府

吾啓に關係政の故を以際指ると初頭を前
政分りりし處に股大夫不同意の政當りし
業の一反封土の事還りて然し此後出立不
政不り之廢を以の制地を指類不形又此類
之の條理不貫徹は制を君上之思旨と爲
在りし本用者なり此後僕之心服地を成以
上制を此類を止りて此身能を成りて機會
後中への空易らるる此國言を成りて息
こゝ鳴呼なり
と多末會身大奉り此後歳六首集に就許波

大夫精神元氣男の年一冬に能く多り

廿五日

甘粕参謀新著杞憂概言一冊と土州御
朱毛利恭助の示す毛利一流大賞歎いた
此中ゆ言教の流るる後藤藤と差出た中
書りし
去酒北代忠吉青森に贈る箱館戦争由
書并書面一覽竹館に漸く決定する由り
本月十日播龍回天に二艘を官軍より春日丸甲
鐵艦二艘より焼殺する右兩艦中烈戦時

七日朝陽艦を粉砕せしむる最早殘徳五橋
郭の立籠り人馬を食ひ所を討つ由據本敵
十三日休戦
十三日休戦

右両軍書状に代藩の飛脚を立寄るに處徳
と開封の上信美の身果速の旨候事不慮候事
お尋事書に先利の厚意候事七世上未だ
七月初十日

廿六日微雨

君上御意内諸侯熱卷内

以時先利と約束致し候に緩く可儀と仰せ相館一
案に付外國判事申井沙院等事申す不取違事
新出善事申付候事不來

一午後四時六光之藩清苑早追之到着於酒
田表民政局より下長井小國の土地四萬石を為
引渡旨書十九日同所出役大井田宿平に達す
お成り右土地清取の民政御用掛太田衛太郎
米澤井百上に出張申す存三候引渡方候
豫に申候事白廿三日發進候事

一三藩の口頭より東京より竹方未始の先生

達出揃えと云ふは酒田表より築込北の古
手掘りとも云ふ事ありし事河内府多し安永
と云ふは古河ありし事東京諸人の痛く詰り
来

其相本宿り堀尾之命の白驢河基の長沼良
之助惣多し酒田民政局より出張し出陣
説換り能は波堀尾相中長沼とありは交不
在宅此節御後出丸ありし事仰内儀禮ヒソカ
と改り候事一刑法監察敷十人此処あり
此之才志本序山堀尾其方の縁も歎絶す

廿七日日曇

早朝竹股大妻より用事ありし事出頭し廣大妻
より口交し此上地下長井郷引渡りあり園邊
必止と斃死此方早春策着端此方配り候
共兎角時節到来多し己に前顯地所引渡
成りありし事窮窮に坊合且兼り以議足下
存寄し中書續世方地處此探知候に深
此委任は御付候事國家に為の十分存力致
損事此法は御付候事六老山川深き事
事有謀ありし事口邊者より事

右之命考也山川六先回道先第一子肥後出身の
民部官庶務知事澤村脩藏之徒新あり懇
意之續日人出勤先早曉之西國藥研術
之自宅之年面層改之妻出演説之今般
市割地成り下長井小國西郷之地之博士昔年
未開墾之地之表高四石之被伴出り得共
其内為十萬石餘之土地之口之法良と之
此儘之滿十之表置之儀之成令々 天裁寛
仁之在趣意と之反之山身是非之先年舊幕府
之返地之殿之度代郷一國之地之口之書係始之

作付換申能意之成之安最果國情切迫之立行
之申陳之安澤村面一極之至極尤之如尤
祖改是之申之申之申國情之安表方公然
哀訴改之方之然但申之滿至君一旦封土之滿藉
申之還改之此之目下府藩縣之制度之未だ
治定不相成此際之土地之保種之江秋
立之身如何之條理上不都合之次第之立
之得之替之替之替之成不日知藩事之新
之伴出之め之然之類出之方萬金之出計策
之於之之之之之之之若松表之巡察使之

孝駕^三改^四條殿^五參謀^六白民部官出仕
谷紐吾^七館林藩中村采^八江州處^九越^十白固^{十一}
篤^{十二}情^{十三}實^{十四}打^{十五}明^{十六}步^{十七}地^{十八}引^{十九}渡^{二十}方^{二十一}古^{二十二}於^{二十三}豫^{二十四}之^{二十五}義
羅^{二十六}殿^{二十七}酒^{二十八}田^{二十九}春^{三十}法^{三十一}書^{三十二}之^{三十三}時^{三十四}日^{三十五}之^{三十六}遷^{三十七}延^{三十八}以^{三十九}快
秋^{四十}乃^{四十一}方^{四十二}肝^{四十三}要^{四十四}手^{四十五}配^{四十六}之^{四十七}一^{四十八}四^{四十九}條^{五十}殿^{五十一}其^{五十二}於^{五十三}孝^{五十四}駕^{五十五}
以^{五十六}成^{五十七}乃^{五十八}方^{五十九}拓^{六十}固^{六十一}其^{六十二}甚^{六十三}深^{六十四}乃^{六十五}刻^{六十六}之^{六十七}早^{六十八}急^{六十九}入^{七十}說^{七十一}坊^{七十二}之^{七十三}言
且^{七十四}又^{七十五}民^{七十六}部^{七十七}官^{七十八}副^{七十九}知^{八十}事^{八十一}廣^{八十二}澤^{八十三}四^{八十四}位^{八十五}其^{八十六}心^{八十七}得^{八十八}以^{八十九}是^{九十}
孫^{九十一}中^{九十二}國^{九十三}德^{九十四}之^{九十五}書^{九十六}要^{九十七}乃^{九十八}下^{九十九}去^{一百}自^{一百一}公^{一百二}乃^{一百三}其^{一百四}後^{一百五}言^{一百六}乃^{一百七}
嫌疑^{一百八}之^{一百九}指^{一百十}之^{一百十一}兼^{一百十二}乃^{一百十三}後^{一百十四}藤^{一百十五}卷^{一百十六}與^{一百十七}出^{一百十八}懇^{一百十九}意^{一百二十}有^{一百二十一}乃^{一百二十二}坂
藤^{一百二十三}乃^{一百二十四}廣^{一百二十五}澤^{一百二十六}乃^{一百二十七}得^{一百二十八}肉^{一百二十九}性^{一百三十}之^{一百三十一}比^{一百三十二}通^{一百三十三}乃^{一百三十四}乃^{一百三十五}玉^{一百三十六}柄^{一百三十七}乃^{一百三十八}也

都合^一乃^二乃^三乃^四乃^五澤^六村^七乃^八乃^九懇^十切^{十一}巨^{十二}細^{十三}
打^{十四}乃^{十五}指^{十六}南^{十七}乃^{十八}乃^{十九}乃^{二十}乃^{二十一}乃^{二十二}乃^{二十三}乃^{二十四}乃^{二十五}乃^{二十六}乃^{二十七}乃^{二十八}乃^{二十九}乃^{三十}乃^{三十一}乃^{三十二}乃^{三十三}乃^{三十四}乃^{三十五}乃^{三十六}乃^{三十七}乃^{三十八}乃^{三十九}乃^{四十}乃^{四十一}乃^{四十二}乃^{四十三}乃^{四十四}乃^{四十五}乃^{四十六}乃^{四十七}乃^{四十八}乃^{四十九}乃^{五十}乃^{五十一}乃^{五十二}乃^{五十三}乃^{五十四}乃^{五十五}乃^{五十六}乃^{五十七}乃^{五十八}乃^{五十九}乃^{六十}乃^{六十一}乃^{六十二}乃^{六十三}乃^{六十四}乃^{六十五}乃^{六十六}乃^{六十七}乃^{六十八}乃^{六十九}乃^{七十}乃^{七十一}乃^{七十二}乃^{七十三}乃^{七十四}乃^{七十五}乃^{七十六}乃^{七十七}乃^{七十八}乃^{七十九}乃^{八十}乃^{八十一}乃^{八十二}乃^{八十三}乃^{八十四}乃^{八十五}乃^{八十六}乃^{八十七}乃^{八十八}乃^{八十九}乃^{九十}乃^{九十一}乃^{九十二}乃^{九十三}乃^{九十四}乃^{九十五}乃^{九十六}乃^{九十七}乃^{九十八}乃^{九十九}乃^{一百}

此等後藤奏與必於外他策有似
深心得為持於此一民部官之退出
一土州滿邸之直之先利恭助之田舎政
此及大田衡太郎酒田民政局之土地法之案
以深事之談改之要之今他出外後法之成案
皆自明早於多指中守之為合
而後高之出之竹股不滑之命命年

廿八日晴

一早朝小川日道先利之為之委曲談話改之要切
迫之由國情之極也尤之承之改之兼之也尤之由國

情書及後藤為見之續是之後藤奏之
一評之政之文中村幹之助之樂之滿之民部官利
事之由仕之得之文中村之為之深之依初政之能謀
之代之中之身中之材之於昨年大坂之對酌之人之
亦之駿河其文中村宅之訪不快之十四日之
以流之身之於來之逢之金市之於改之於論之合
一年故及後藤奏與之諸君之力之于一時之馬之
土州邸之為之先利之訪之要之不在宅後藤之
接接之也之我之怠彼之緩之自異情之有之歎
息空之受得之也之相之也之評議之也之先利

依頼一故藤日同行の如直後藤日年外此
こゝにおかす

し夕々多國川開大花火物より一故方難指

廿九日

小川同道早天より毛利の馬より駐中より
後藤為るの難疾より冬に去り一昨日兎角書
面より多し情実不亦通延引よりし然自冬去り
段攻より後海より多し是力より後但第機より本輔相
三條公より亦より多しはし本林書より亦より南官政
多し是條公より亦より多しはし本林書より亦より南官政

越前中納言敏政抄年民部官知子身職よりし是行

相福より此國情より哀祈より來る若し相福手順

苦惱より公用人伊藤友四郎方より多し是如方

依頼政相援よりしより多しはし相福懇篤より忠

告美より二先利より指南より多しはし抄年

先ツ和より三條殿より多し是補より多し面房より要より多

所勞者より不れ傍面房路より出より謝禮より

常盤橋内越前家より多し中納言拜謁より多し是

村悪處より墓より多し不立はし於清殿伊藤友四郎

氏より始より面房より一相福より内者より多し是如前

板垣之意見より米澤藩に削封を成し
始り朝裁苛刻に心付たるを先受りて藩
政に苦情有らざるを不相濟深し盡力可成
旨懇談ありて又後藤の氣お日封談に
及らば後藤の意見より封土返上を許す
専ら天朝に土地人民より米澤藩に苦情一
藩の私情より仍右苦情十分中立
一切不苦早返り如何に彼藩に為りて
以て之を嫌疑ありて治められ日最良と
皇國一體に安んずるに得ん苦情に及らば

先上極盡力に致し其快氣出勤改め奉
藩澤より可儀置るに及りて後藤極直に大
に祖談を如比利に言し固く其一藩
大慶よりし事

一越前家の事伊藤の面會より先刻書状
より印中の事より板中事より言し伊藤密
談に及りたる事

過刻中納言墓参歸印吾子也承り以て
國情に慮り多細中納言中納言に承り承
知は政直模民部官の出勤に上不取敢出

汝法成、酒殿、帝、上杉家之事端、
力、有、聞、取、多、也、此、評、判、路、成、百、七、家、臣、
之、民、部、官、之、呼、別、表、盤、之、紀、明、之、方、尚、也、
亦、定、議、之、成、極、密、之、得、共、今、日、中、細、言、
書、面、之、心、其、勸、日、法、也、其、直、書、之、多、業、
之、有、之、如、内、之、懷、中、之、取、出、之、内、院、政、之、文、面、
之、大、略、

上杉家上地引渡之儀、兼、秋田、津、
邊、置、處、之、般、酒、田、表、民、政、方、上、地、清、取、
之、家、之、苦、情、有、之、趣、相、聞、之、有、之、事、速、家、

来、呼、牛、之、紀、明、之、政、也、

但、之、紀、明、之、家、内、藤、四、郎、之、中、邊、之、事、

右、之、通、今、日、中、細、言、之、配、法、路、以、得、之、今、朝、出、引、
合、政、以、法、國、情、大、綱、領、之、事、書、甘、也、最、早、當、家、
之、於、之、ハ、相、見、之、不、及、其、在、書、之、内、藤、四、郎、方、
亦、持、之、之、深、之、意、誤、之、成、越、前、家、之、指、回、
有、之、之、如、亦、演、說、不、苦、之、第、一、之、厚、意、之、付、通、
矣、之、感、佩、之、不、堪、次、半、也、
右、邊、民、部、官、之、立、寄、内、藤、四、郎、之、後、之、及、之、交、
麴、田、三、軒、也、

物印直の御誥に聞出竹股中條与大夫下
條中庶子木曾六老出生之由を以て山川先
一日お揃と形奉の奪走多由に陳交直様
御前には良出事情詳細古聞上は成法然
に御意成下甚は安心は游旨と退出
竹大夫御事酒造出に是快徳来り米澤
直の飛脚先多事

一と云妙前家坊政書百尺し通但成市
勢勢と
起し本島を潤色を改

今般 朝裁は百石米澤表四萬石の内下長

十月三日

井西郷之地米澤一藩に存七ヶ關係改協所
柳舟先年舊幕方返地を成り度代郷三萬
七千石に添地を改し而福短款願改方一
藩痛情を右地所より返取締之儀に留
新發田方為藩に兼り内達に成りては
渡りて暫時遷延を成りて處を改し藩藉
返上奉願に改し其際土地は保替に
其身能く助に改し其の儘に書差に
以て不日府藩縣に改定を定りて
前頭下長井之地他所扱ふ成りて満

政施設上甚差支に或有、佛澤村に義定
派に身秩に好兵に交、今及羽前酒田
表民政局より右下長井郷地所清取、為
清向役に出張、如若澤表に水邊、義に
越國表より向役、者早追、以、登京一昨
廿七日に到着、信、右、情、案、多、出、在、
哀、派、交、留、中、出、有、府、為、酒、縣、所、別、交、在、定、
右、成、に、し、る、に、通、國、情、款、款、信、交、心、得、に、定、
右、に、趣、に、情、案、に、成、に、酒、田、表、引、渡、に、事、也、
故、亦、に、豫、に、成、に、及、敬、意、に、也、執、成、に、禮、儀、

廿六年十月廿日

寺懸頼

上式部内

五月廿九日

小川源太郎

宮島誠太郎

外、早基加酒、米、俣、補、情、一、卷、大、明、画、圖、面、
添、

一、民部官、明、後、六、月、二、日、出、用、に、我、有、に、在、
已、之、刻、出、頭、す、

六月朔日

一、昨日、越、前、家、伊、藤、友、四、郎、草、尾、一、馬、方、に、早、朝、集、
以、格、書、状、有、に、以、得、共、已、能、用、事、に、濟、行、違、

少壯感得之々然不余

一庶務司判事内藤四郎山川日道年同會
改越前家厚意之旨余上之依物仕之
今般酒田表片上地活取之白回及之出張
之々當演說於國地艱願書并之繪圖面表出
之々一之滿之好亡之關係場合之々成之在
盡力之禮之越前家之疾之之内沙活之
之々之能之活之可成之其力之可成之
之々之心得之快隨之其之其之民部官之

此中致政之身酒田民政局引渡於豫之何書并
國情艱艱之書類所取收民部官之出指出
之然肯然之厚意之々同致矣悔之事

一年收之所得又山川日行在利之々不之居
一萬子之々之調達之々之舞之々之面會致
之般之艱末之演說之是之輔相公之之友
達之他日府藩縣之治定之日之然艱願之出
何來米澤滿之行之憐憫之々之之之
之然之々之之之之之之之之之之之之
不猶之々之之之心之之之之之之之之之之

有之以得共兼之土藩後垣板垣入意之此
方氏主筆之熟談之代作之也
少不年之事と云は怒りの中より物即

二日

一民部官市守掛身小川六光并誠言出頭
内藤西亭及引合九之通
一其藩昨斗中四萬石は官上は節秋田新發田
五之浦取締は作付上地は酒引渡り
此作渡置は交此交改は酒田民政向り

渡り換達一指し以款之何日可次才物
款中より水尋身

若作之通四萬石は石物節秋田新發田五
引渡り換は作付上地は酒引渡り
大何分取用不行届是也延引張身交水
尋通此交坂田表民政向り作役人出
張身不都合は渡り換は作付上地は酒引
最初は市達は違致甚高感仕りつ
此節主人東京詰は清一應主人は中達
上進退仕り外冬候の事は國許

上り重役早速出府候次第に
申渡され候に候書差出候引合身別
次第申出候事

一其為土地候一旦秘田對者田
酒田表民政局可引渡言御達
上り於其滿引渡候事候同書趣
尤之段存候手改何也酒田表出張先
取見候見候言取候中物玉急酒田表
中越取候上渡不渡候事同書

引渡不及此由申渡政事
一御達趣給仕候事候引合身別
國許中越酒田表御役人出出張成
御達趣言申出候事同書
豫取物申出候事同書
退中

上り民部官差出候御書
昨年十二月中領地内四萬石以上
上り地所

秋田新設田圃滿取俾此作付申下引渡者
 沙俾渡多安版籍返上之始め程多端之申物
 取調向所行届于今引渡取運兼申再之取酒田
 表民以向より之何故右地所為所請取申出長
 成以首申達申在、交取之趣勢所申行政官
 分何苦之申達之申在、最前之申達之趣勢申
 以得之如何之心得取量之申物申付申下申
 國元より重役取登申下申付申下申付申下申
 六月二日
 小川部内
 官島城市
 民部官御申

二十二年九月

官島城市

臨海取

之民部官之想對官之申物申付申下申付申下申
 物之畢竟越前公之申物申付申下申付申下申
 引渡分不都合之義、酒田表出先より取量申下申
 至急取申下申其内引渡之申物申付申下申付申下申
 教日務働之精神、報謝之申物申付申下申付申下申
 一三取六老申下申早追及申下申米酒取報申下申
 申下申申下申前取申下申何事申下申申下申申下申
 申下申引渡之不及者公然引令、歳以申下申至極
 申下申相調申下申申下申申下申申下申申下申
 一取入山川日申下申申下申申下申申下申申下申

第一禮中述廿二日以來如々々手配畢竟澤
村之奮勵指示之儀等不詳於以上各書
盡力改良指其狀具之省中より於之異論未
起之何事書報道政等様多托其手
酒造出之吳祖等々成之招中詢即錫印云
抄系了

三日

早朝三階清花等々其手配廿七日以來
配流之酒田表より出候之太田衛太郎一圖
掛石引渡方好豫之手配之抄系了

一 民部官より出候通

御用之儀等明日已之刻出頭可也

六月三日

民部官

上杉式部殿

と云ふ之儀六光七出立の形一様々之芳御能
及之と一息以出候形より呼掛之支度致す

四日

減市已之刻民部官より出頭之支内御用
取違之儀等先申御用云々此札之通

此札

上地之場所兼之於達之通也心得垣田表民
政局引渡之及佐竹右京大夫溝口伯耆
守郷村等引渡二十一年

六月

右所付書以察付出後之身請取書印
付一為多田口達仍九之通也認差出
書身 官書手後手

昨年十二月領地之内四萬石也

召上指地所村田新及田有満取締
仰付引渡之法作渡之及取酒田

表民政局引渡者御向役出出張方成其
亦達之心得方守伊交由其後意の上地
之場所兼之於達之通也心得垣田表民政局
引渡之及佐竹右京大夫溝口伯耆守
郷村等引渡之通也心得垣田表民政局
段也請申上以上 上杉式部内

明治二年六月四日

官島減一印 ○ 官印

民部官印中

右所付札証書表出御引渡之通也心得
内為四帝内話之身續其後也君上表之書白也通

此什紙を以て出制置ありて極内密に
中府南坂身相察改行す酒田表民政局
長官より取寄り水源多下長井邊に利
に必ず望望注自致りて後人共松田新
田より障入事取寄り取量改行後中何
向より取寄り出紙酒田表引後方を考
其筋より大盡方より取寄り且又和
出採次中出知取寄り出中少都府より
十民新官出出掛州即ち出寄り公用人
利蒸切り及沙法に取寄り極内密に明

巳亥八月十日執筆

有と出制度法 出出御模範に得て直事
歎願出出出可然酒田表引渡近門
先々大少都府身相察改行す酒田表
貫徹り取寄り出中少都府より取寄り
不遠少歎願出出出可然酒田表引渡
新為田南坂身相察改行す酒田表
先々出出出出出出出出出出出出
六月甲
宮島勘次郎
出出御模範に得て直事
出出御模範に得て直事
出出御模範に得て直事

宮島勘次郎

指し運心山田切を處りては作行早追を以て

六字考及師

哲の垣田表民改古用掛之役人日教を修り

名海を大抵米澤に第之日教の八戸海を

外海の内馳せし身配を立事

は相海家光古處を古會評士成りて言

中教日事盡力して思召御預成六旬に及

過竹股中傑と大夫木滑川古六人年を

片山公議人甘格軍務参謀池田南洲南人

堀尾彼故役頭古官島公議人副役引

施石三書

辛酉年八月十日

五日

山田切出立及び中家光の屋敷と外交會時

出立の事しと内証ありて民部官出立

北米澤にお筆の酒田民政局長兼以てと

酒田表直より後々不及と雖も時遷延

以て秋田新参取用と酒田法取との系不日

府藩縣と治定次第と地保知事と軟弱と等ハ

寸時と多油断取運に事の中務に多し仍も

参謀國史と草業并、画圖面等取運

方沙所付行

指板亭より子及公羽庵と銀升欲々芳深入
り先利と智る

九日晴

公議人不时會議貨契一案可

森孝大和守不先たをるるる不来

府藩縣制治延り成り次第は昨日行政

友り三都金鈔能通る為割ると標

幣正金取替る達は伴出る為公議所は

議海沸騰の一を混雜する

朝廷は制度未定知藩事は伴出る子も危

之甚高感るに可 関口は先たをり又本抱可
醉月は先たをり

十日晴暑

醉月は身を澤村園花を以て輔と舎は環

初波は出席の時は有り甘粒湯は小川西岸

堀尾は其の生を高人と言ふ土地振替は中

情を談し中は方を家を托す市次は以て為す

民神知事は情を実と通し異を候は痛を托

伊後信輔は其の才を知る信幣は漏れ物は其の少く

三波制は及び一はナリ先に

十日

形と利と訪不在屯下村銚太り三治前
の山模秋のついで伊豆の山に伴出ず西野の
部事乃沙田進つて不候千枚品川山行
一米澤表より飛御山着長尾着陸及酒
民政局より太田衛太郎頭取より訪役人并
柴橋民政局役人兵隊と附屬中の都合
九十八の儀並に并り申す今月二日米澤着迄不
國郷より清取の儀に申し申す
十日

會談前出の酒田方面土地清取の事書付一
覽表より清評議の大意

官民部官より達し成り米澤表の南
下を以て第一府藩縣の別度より出次り表向
土地を振給ふに願ふに在り申す此の配
賦の地は之より七割を以て米澤の模給物と見
るに供過す内酒田表より民政方面に多
く譲るに取れ此の酒澤勘考の得るに
後より引渡す者付次第より達し一旦
酒田表より法役人並に之より直ちに民部

不知其服以何引者... 被此若延... 出来七... 如何... 杉文... 旋微方...

但十... 殿上... 小川六...

一川六老日通土州... 用入... 毛利...

之般米... 役人... 許... 酒... 彼... 加...

十三日

排曉有人馬之駿河是板垣長興宅也
面會を以て國情一切追申上は下は
取次平乃安今日輔相様之命は會計
官は出の行政官は皆出勤也
火倉之由國情を承りて申用不立也
府杉又推返しは是非拜款は作付
可達給物也拜賜は作付也
別之由業内申入面會いたし板垣曰く昨年
土州舊藩の兵隊引率改し出先を於て考

議より作身戦争後奥羽法藩は天裁得
願堂は有司は任也御名は暇を賜り
仰安貴藩は於裁國許は折る傳聞四
萬石別封は如何も奇刻は調は任
段は中儀の事は評判は先年舊
幕府より加増地者之より多分は
者之層表云々の評判は議を以て且
於例を以て見ゆは有罪減禄は新
より割き上地は地振合は天下同叙
は未得備割地は同懸法田柵要は土地

太郎自己之取量之為右等始末之及之其
不審之在在自衛太郎使之者之民部官之
く札の得た事深意の不在分只一遍之使
可於酒田表米澤上地所取有及自其
大行違ひの成る故に民部省より配る
政令事よりなり此類行政及之其出
向民部官の在り出の方此便利の成但
米澤表の張之役人の氣神と損害等扱書
く此取扱成り為暗機と為事乃一大事
要之自局変更之末各職在忠告中あり

由帥直換所造之旨に出勤相填卷與并若
倉家其力之廉大者後命

午後在歎所之草案之立て政府會談所
あり上目録之草案之潤色改
竹股大夫未滑之先未之點削り改想之
願之主意の相填卷與之指之其之相中
清書深更之執筆國情書之自案出
草案之目録點竄改繪圖面一枚
考課區畫書之

十日

小川乃老回道早朝若倉殿之系上之友在澤
廷郎面會中守之禮前少之也腹痛之
之系師美於之法游仍由面談論由成以俱
亦國情昨之行政官板垣卷與之承
知事政澤之喜國之安於少生巨細之承
り病常身之君不致陳述改換中守之
筆勢之難之出者有之仍為我來演說
之趣方之盡之書之那事於國情難於與
通事僧回由之添由晚之量一尋板垣板開
於民部官之出於之然歎又之行政官之出

可然歎此等之件也指軍法不友有在澤之痛
托波之内俄之去國前之馬車馳之來何之
之傾耳之受後藤象之平卷殿之取次
之物之之於之ゆ之不料後藤美之殿之成
之有者素業或及面會りり金也之有層之成
偶然若倉殿内之初對面いたし國情之
演說乃之受後藤美之卷之り少之未得滿
之事情之板垣同僚之喜友承知改之片日
之也成之也未得滿之地人民之即之天朝之
土地人民也之乃也奧羽之藩鎮之成之也

忠勤王の御事之變古昔之苦情より自ら
然藩勢尾解ちりて宣國之志ありて
初之苦情内守を決りてお濟山岩倉公
之指圖以て申す行政民部何方
と申すは出玉申す一書申す物也
初りて夫、習真波一、廟堂之公論
何事之沙汰改て百且之違、禁方丈
我力て改て、後孫長兵之精神
至極と申す都合あり
若くは岩倉公の、後孫四位の、門下

此上三條輔相公之情實貫徹之義肝要
若く三條殿より本林寺大和守を討て
乃交幸、輔相公古志、即ち成り、閑暇
申す、舟中、衣服、摺り、舟より、指討改、西國
之酒、梅川、長、伴、の、相、半、と、綴、在、改、大、機
嫌、より、其、歡、比、身、酒、間、萬、の、閑、談、是、非、と、上、地
孫、碁、之、事、一、篇、之、無、廢、閑、係、之、心、願、成、就
之、程、輔、相、公、ま、て、此、執、成、之、程、偏、之、物、入、腹
心、と、布、と、交、幸、と、一、書、及、の、改、と、引、申、矣、
十者

拂曉滅三島岩倉殿の事上古沃氏の面會改
 受大納言の趣意に大旨の情実を交筆に
 了辭を改けし我一人必得取登りぬるに
 ぬ到表立ちぬる圖り沃も亦これ得た
 三條輔相公に事案諸大夫の手案あり古國情
 由陳述は成る具又行政民部両官も亦出資
 七輔相より指揮する受交具又土州の兼
 古親縁より沃に後藤板垣方人の由依頼
 成らる友人を爲り於 朝廷議論も亦
 事人情に於る趣意成る意味も亦あり仍大

久保木戸副島東久世も亦依頼を改換
 由配成る右に全く由爲御殿に事案圖り沃
 にも古國情を沃に和らぬ意あり且古通
 にも古情を願書に大納言の由を御覽
 事案に存せし趣意も亦沃に事案も亦
 達古沃の演長も亦厚く禮を改岩倉
 殿に辭し直に三條殿に事案を森幸に昨夜
 一禮り述へ面會しし受昨も亦御用也
 扱ち岩倉の五人老於大元也亦亦面會
 改仍も亦岩倉の面會も亦改に取預り事案

昨在立身改作件与切迫之國故也
之公然歎願波百所差歎願時可相
歎波百の交り通面會の身二通之國情
歎願多先出之點檢改是之交青吉曰
大要否ら國天辭之關係改事物之真行
改官之指出之方當然あり主人只今年
内借揃之成得共屬之通之主人之内院
吏之可何と心する暫時お相交青吉
思ひ輔相公の忠告を仰へて事と品とを
民部之關係改得共根元削刺より出て

一藩之昔情と成りて之為の土地疎稀歎願
と申す時國家之大弊と知れず辨官事美
不可然より指揮と成りて申す
之内官と謂定改之礼敬由御於浩之間
大夫之老と評判之上者通之書付改之行政
官に出頭辨官と申す官當伊東民
之助請取録事局より取調之成りて
民部之關係改事と申す官當伊東民
成仍る民部官指出之口達と申す
通事類と申す官當伊東民盤内信市

たし不成成退事

陶進土州印の事、毛利藩の、面番が、元量
の政に及ぶ、改の事、三條公に、指す、
ある、誤改、若、同、但、せ、方、の、此、の、改、
は、夕、毛、利、の、案、内、川、長、の、層、飲、け、
先、利、の、祈、の、痛、飲、夜、半、夜、

十六

小川の老、日行三條、破、
會、
の、官、指、
局、
民、部、

官、
然、
若、
未、
心、
明、

越、
は、
本、
官、

國情書

弊藩儀度長之者會津百二十萬石より
米澤二十萬石減封中長は又十萬石の
減封成るに漢代之家臣誰も指し暇可
遣積多し之は終極助政至り於死行の難
持持方謀り少分の儀に在るに高不相當
の家來多し在るに於て自然藏入不足供
加之米澤藩内者山岳多し平地少し一
耕種之地僅り少し一も不過且四境皆
重山險路運送之不便之貧材空郷

八十一

のみ多く追年上下困窮お極る際曆々次々
の殆んど七國之可及林にお迫りたる臣為
祖父治憲子鷹山大に奮發改し君臣一同非
常に盡力を以て荒田を闢き物産を興し就中
下長井西郷の中地尤も農桑の宜き地勢の
甚佳あり此地を力を用ひ輕臣并大臣共
に陪臣等と山治へ荒蕪の地を土着せしめ新
田を開き力ら獎勵策を勸めて諸民生産
の基を立て且又通船運輸の策を立改め
僅り下長井松川も一帯水のみ在り

酒田港通しは海大、水底若石崎礁多し、
通船ふたし、鹿島山多年、辛甚し、以て
金を敷し、暗礁を切り、抜き、小船を設け、酒田港
にお通し、舟に、百貨を運送、始、便、舟、
下長井、田野、戸口、追日、お并、同所、西
郷、地内、實、凡、五、萬、石、餘、及、以、殊、大
養、器、米、澤、才、一、利、潤、占、存、交、蚕
種、生、繅、亦、ら、以、地、主、と、政、得、也、
運、上、税、銀、亦、五、六、萬、石、の、お、威、権、一、藩
之、膏、油、實、一、部、地、の、所、及、事、也、
現

今、四民撫育し、資料と始、國用百端、
經費及大小諸士、食邑産業、實、此地
一方、と、頼、ん、て、取、續、け、在、り、交、舊、習、儀、を、家
天、裁、を、吊、者、下、長、井、地、所、并、小、國、郷、也、
召、上、る、旨、也、

仰出、君、臣、一、同、悲、歎、う、不、堪、他、地、と、違、ひ、
は、下、長、井、と、召、上、り、た、り、實、米、澤、半、額、と、
召、上、り、た、り、財、用、の、時、俄、と、
竭、民、撫、育、と、始、の、法、敏、と、政、教、行、届、一、
凡、込、お、各、所、存、上、り、拓、地、所、土、着、せ、の

形小臣苦口直教其外各在。然其時一
藩自然不居。兵備之移。勤王敵
懐之力。七弱。且又未。海城下。下長井
之。首尾接續。地之。經。地勢之
之。其。是。天裁。其。土地。他支配
之。或。將。東。其。民。之。罪。犯。白。道。者
者。或。留。禁。物。等。溫。出。令。身。高。王。松。川
之。舟。下。之。家。之。出。取。押。之。可。取。之。在
在。樂。害。百。出。藩。政。不。奉。之。然。之。者。之
衰。減。之。出。下。之。上。下。一。同。心。痛。之。限。其。痛。

以。考。之。條。之。深。以。構。察。之。成。下。何。率。下。長。井
郷。并。小。國。郷。之。地。是。追。通。領。分。之。成。下。右
代。地。之。為。近。年。舊。幕。府。之。舊。領。地。之。成
成。之。屋。代。郷。之。中。東。疆。之。地。三。萬。七。千。二。百。八
石。余。之。地。之。上。猶。不。足。之。分。右。地。續。東
北。村。之。内。之。地。上。之。地。之。心。然。之。亦。之
他。事。之。事。

巳六月

上杉式部

民部官

御中

御歎願書

昨夜十二月

朝裁^レ之^レ心^レ也 召上^レ四萬石^レ下長井西
郷^レ地^レ米澤一藩^レ之存^レ亡^レ關係^レ改^レ地^レ不^レ務
多^レ則^レ米澤半領^レ也 召上^レ七^レ難儀^レ
者^レ之歎^レ未^レ別^レ帑^レ國情^レ書^レ道^レが^レ難^レ儀^レ今^レ行
樂^レ藩^レ之朝裁^レ四鄰^レ清^レ藩^レと^レ違^レじ^レ御願
收^レ於^レ廷^レ對^レ即^レ徵^レ効^レ者^レ之^レ廉^レを^レ録^レせ^レり
也
御仁恤^レ之^レ心^レ也 旧領^レ之内^レ四萬石^レ 召上^レ也

侍^レ浦^レ汰^レ之^レ越^レを^レ相^レ承^レり^レ矣^レ 之^レ實^レ半領^レ也
召上^レ儀^レより^レ甚^レ敷^レと^レ申^レ矣^レ 東^レより
天朝^レ之^レ越^レ者^レ有^レり^レ月^レお^レり^レ好^レ一^レ夜
此^レ下^レ命^レを^レ成^レ儀^レを^レ推^レる^レ身^レ願^レ上^レを^レ恐^レ懼^レり
至^レる^レ所^レ海^レ邊^レ大^レ切^レ迫^レる^レ國情^レ然^レ止^レの^レ身^レ先
年^レ幕^レ府^レより^レ返^レ地^レを^レ成^レる^レ座^レ代^レ郷^レ三^レ萬^レ七^レ千
石^レ余^レ之^レ土^レ地^レを^レ心^レに^レし^レと^レ般^レに^レ上^レ地^レを^レ振^レ起^レす^レ
成^レり^レ御^レ歎^レ願^レ外^レ多^レ他^レ事^レを^レ凌^レ激^レし^レ及^レび^レ交
す^レ頃^レ海^レ内^レを^レ鎮^レ定^レす^レ不^レ成^レ且^レ折^レ苦^レ之^レ歎^レ願
仕^レ多^レ也^レ 奧^レ羽^レ列^レ藩^レ連^レ及^レび^レ御^レ僅^レ新^レ草^レ創

帝と云ふ事達は成る身不取敢て西國方の
軍運し不代交國表未達因已由海田親
民政政用掛向役来れく出出港之成り
然又國方より軍軍中身一頭と當ては押
存亡之關係改の受少の如くは供出後
仕るるも只之多負國之藩柄向領内治
方行由極き凡は是之而己ならず差當備
代之家臣共多勢石放の外多之既差
迫り中實と云ふ中已新抱の兵隊千人余

敢し只今謙信以来極由緒難捨者のみよ
五成り不勅百年之艱難共中何く過失
無の家臣夫今更誰を指て暇なき下抑
之只泣血仕斗りて存不日府藩縣七割
汝出り得る元右右者共一統朝臣と成
天朝と云ふめ致死の者り一臣下生活
立極て成中切迫之國情中上連必心
一藩之私情もなき家臣も上下一
一同悲歎し苦境偏て而亮察成下
朝廷寛仁之趣意も貴り極り味成り

伏す身懇願し一旦封土返上仕業は如中上
事重々恐懼し之身神澤共前歌
時情殆黙止時死身陳言誠惶誠恐
頓首

己六月

民部官

上杉式部

御中

右每通教日丹澤新表立進達ニ成
以自米澤表ニ飛脚差事
晚天竹殿中條為大夫慰勞ニ白北川梅

二五

之案内より山川與人ニ際合度せらば教旨融為ニ
義者若謝あり如此上成切ニ程は其力を乞
詢速雨天ニ至年経儀麻布御用

十八日

早朝山川六光同道馬為民部官副知事務
澤四位に控越九段上面會と乞ひ海片殿を
早出勤方他々年於文次と云ふ所より不
得止切迫ニ國事より身隙をらるるに
知所拜款致分り申了交生敷之由
由多し昨年立師行方御古厚情由御教

法不物國為方時以兵軍車翻踏水泡亦
了前下軍事之誤事勢即年何自足少
亦下亦下矣後復得曰老兄之病必及矣
井氏呂激之激海之困於此其苦以拜
款之要以年之區事亦自有其成之未
澤於裁之結果一為即七之陽合之成
亦上地材於不咸之時減滿之口然亦未
一而法軍事之許許許身亦師如款之
重之亦內初之年中胡方深遠之所集
名產地城之南學上京建白而收微力也

我之於廷之為深之亦深也其亦深也
虎之勢與日俱進之飛之成但一旦
誤國事之得其由悔惜之於一則微初七
亦不寬仁之於裁之亦一日感悅其為
前題之次少及款許之協在之成之何年亦
痛矣之成之是非抑亦之而河沈之土地
亦深結之成之一國也堵攻之何國情難於
與通之人式部之明表向高本官之進選
改之始終之國情與中亦下矣度得者
乙壬金尤之安者亦願意其快心得一也

初酒田民政有る國分寺出原いたし、
面會之趣申力得共、未の暁、
清信、美諾、周、
悦、心、引、文、事、

書、廣、海、程、面、會、
酒、田、表、出、原、之、
情、先、入、
均、
五、
酒、田、
凡、

為、
川、

小、川、
交、
仍、
勤、
初、
宜、
澤、
村、

至極先之陸中守音、海部也、借方、於方
出沙、治之、成、其、出、歎、願、之、立、業、在、之
通、

今般米澤藩知事云

仰付、付、付、之、兼、為、國、情、嘆、願、中、上、領、
藩、政、取、之、也、

御怒、怒、成、之、奉、怒、入、之、得、其、土、地、
出、謀、替、之、儀、何、事、

御仁、恤、之、 河、河、治、之、以、迅、速、云、

仰付、成、十、方、程、又、奉、怒、願、以、上、

六月廿日

上杉式部

民部官

御中

米澤表之飛御、出、先、之、云、

毛利恭仰、之、云、狀、來、

澤村信花、之、所、之、云、

先、是、其、有、之、所、時、之、者、其、壯、勇、以、成、以、年、
仕、其、任、之、却、說、其、旨、之、也、厚、待、以、成、以、路、
有、其、多、河、以、時、夕、以、仰、起、熱、教、所、今、
日、少、下、其、様、拍、也、見、之、旨、之、成、夫、以、周、旋、

て仕先の右に如き古居の如くは在り

六月十九日

澤村

宮島君

小川君

左澤村の事柄を考へて其民部官中

の事柄を評議せしむるに據り

二十日

昨日の調製に如く小川六老民部官に

在りし事

越前家の用人伊藤友四郎より今日第...

二十四

第中身有誠一も是越前帥の如く伊藤殿
中之能なる者同人中より中切方と稱し
其身可致る事多し其村超而親類を以て民
部官を請家扱ふに別殿に在りし事其
後中より一統盡力致す所を以て其
藩に在りし事其本件に事畢行政官
に在りし事其澤村不在成昨夕後
澤副知事不來り澤村不在成無之
以澤村に在りし事其澤村不在成無之
澤村不在成無之澤村不在成無之

安心あり。云々。義なり。仍るは上古の事なり。
男也。元軍に初て援けを乞ふ事遺し。更
大忠心を為し。鞍馬を早め。海印に交。西を
為る。老還。又馬蹄一蹴踏倒し。一命を
以て。却る事。年々。祖。為。好。坊。時。一。年。
御。浩。為。月。日。板。垣。冬。興。一。言。報。告。之。交。
一。統。他。氏。有。人。海。世。云。
毛。利。之。業。内。小。川。池。田。日。色。新。出。世。物。也。
一。交。毛。利。之。事。不。末。

二百

岩倉殿。集上。古澤。近部。相。倉。沙。一。先。氣。
第。端。之。由。為。能。成。之。如。之。以。指。揮。之。渡。心。
森。在。以。不。修。之。好。都。后。之。為。一。身。量。方。也。前。
上。中。上。兵。將。也。物。也。
外。七。掛。中。井。弘。茂。第。地。之。勢。下。第。之。兵。横。渡。也。
引。地。也。隣。家。吉。井。半。輔。之。事。周。倉。也。為。
交。之。友。彈。正。官。也。取。没。之。威。也。吉。井。彈。正。志。
必。命。也。九。條。殿。也。官。也。成。之。友。彈。正。尹。也。也。
大。忠。也。吉。井。之。外。之。因。州。之。門。脇。正。親。小。忠。之。兵。頭。
大。八。十。人。也。從。書。井。之。殿。也。用。也。説。北。地。

残第之談又於延獻人之説也
均地生利素仰之方安其方也

愛宕山山終終初原洞舎於此大未申會
以備

二十三日晴暑

數日外亦奔走之為の昨也身不聞大面
却也

午後在內と轉動之わたあ片山先生兄孫
也

海正長浪長心の中辨中島直人内書

しんせう


しんせう

活の端尾と申身右略下長井上地

艱棘之義明の原堂少評交

越也父面中作州老り身次

中少恐悦と云ふ家免外交會と云

思ふと云ふ酒者下強者大戴時大施

極也

月分好者福勇有操瘡治政事

二十日雨

と云ふ冬振休息物在郎入浴針治

此。得。入。三。通。之。所。且。其。行。政。官。辦。官。事。之。二。
回。到。本。明。日。就。其。所。一。通。四。所。其。通。共。日。
君。上。古。名。上。杉。式。部。免。為。事。
け。ね。堀。尾。保。助。中。島。中。辨。年。時。古。用。且。
と。給。事。少。元。家。如。何。其。測。遠。之。六。少。し。
不。審。事。有。之。涉。法。之。官。會。候。所。大。疑。
惑。り。也。 ○ 金。子。下。之。敵。書。進。了。
廿。六。日。暑。也。

佐。官。用。之。今。之。地。也。堀。尾。之。一。夜。秋。田。新。
渡。田。南。東。浦。引。渡。り。あ。ま。成。あ。り。と。中。島。也。在。
は。次。山。向。人。之。報。告。も。及。り。皆。事。物。甚。
不。深。き。意。と。激。怒。と。為。り。法。智。者。深。共。
自。分。之。於。方。陣。方。面。也。何。之。異。論。也。是。之。
如。し。堀。尾。之。案。變。也。市。所。之。土。州。越。前。也。亦。
何。案。通。知。七。五。也。し。唯。難。官。中。島。也。人。之。一。
言。高。深。身。之。水。也。其。力。等。古。怪。し。き。次。身。
如。し。乃。去。少。進。一。冬。之。内。之。道。慮。也。是。故。又。亦。
島。事。之。通。之。片。不。可。力。也。し。熱。病。九。回。し。

先利茶心土州帥より早易に駟馬を御杖
垣余上杉家之室一昨より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る

踊躍即刻に供揃に成

君公御垂垂に着用と悉くは御交

大廣間御二之間に於て

君上より下至 輔相三條方大臣様に出立
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る
御評決に可なり安民神官より御評決に成る

上杉式部

先般割地に

作甘候御前國置賜郡高田萬石地所市

詮議之次第者之更土地市振起
 仰出高帳寫之通改而上地
 仰付各府修竹右京大夫溝口白督守酒田民
 政局出張之者若下中候地所引渡下中事
 六月
 行政官

別紙

羽前國置賜郡

屋代御

一高三百十七石六斗六勺六分
 根岸
 一高二千五百十三石四斗三勺六分
 一本柳

一高五百三十石四斗三勺一合九勺九分
 船橋
 一高千四百廿九石四斗七勺四分
 入生田
 一高千二百廿石一升六勺六分
 下和留
 一高六百八石八斗六勺一合三勺三分
 馬頭
 一高千二百九十九石四斗六勺六分
 佐澤
 一高二百五石一斗七升八合六勺七分
 金谷
 一高千二百十四石九斗一升六勺七分
 露藤
 一高四百四十一石三斗三升八合三分
 金原
 一高四百三石六斗九升五合
 高安
 一高八百八十七石六斗二升三合
 三條目

一高百九十石二升三合
 一高二千六十九石一斗六升三合
 一高千四百十三石六斗七升四合
 一高六百二十二石一斗九合
 一高千九百九十四石一升八合
 一高四百四十二石七升
 一高三百八十七石九斗四合
 一高二千二百一十石八升三合
 一高九百三十一石三斗四升三合
 一高千七百六十三石七斗五合
 中里
 龜園
 中留
 北留
 河井
 時澤
 木留
 井二宿
 安久津
 上和田

一高千四百十七石五斗九升七合
 一高七百五十九石七斗六升七合
 一高二千七十八石七斗一升五合
 一高二千九十九石一斗五升三合
 一高二千八百八十三石五升五合
 一高千四百三十一石三升三合
 一高二千六百八十二石七斗八升
 一高百九十七石六合六升
 一高四百七十八石八升六合
 一高二百四十五石九斗九升六合
 竹井
 淺川
 竹森
 深沼
 新田
 長年
 高畠
 小郡山
 相森
 柏木

一萬三千八百七十七石八合

泉田

一萬八百七十七石六斗七升五合

鹽森

一萬三千七十三石一斗九升四合

河沼

以上廣代卿

不足二分

一萬二千七百七十石三斗八合

小岩澤

一萬千六百六斗四升五合

河樋

一萬千六百九斗九合七勺

中山之内

總高合四萬石

右早之御邊所_ノ御_ノ安_ノ程_ノ又_ノ所_ノ達_ノ者_ノ之_ノ御_ノ所

元永曆子_ノ進_ノ之_ノ安_ノ坊_ノ城_ノ殿_ノ以_ノ所_ノ書_ノ分_ノ以_ノ仰_ノ後_ノ左_ノ之_ノ通

上杉式部

獲任侍從兼式部大輔_ノ敘_ノ從_ノ四位_ノ下

右

宣下候事

六月廿六日

行政官

右所_ノ戴_ノ早_ノ与_ノ所_ノ良_ノ替_ノ所_ノ衣_ノ冠_ノ亦_ノ着_ノ用_ノ古_ノ道_ノ朝_ノ直_ノ三_ノ條_ノ右_ノ大_ノ臣_ノ樣_ノ坊_ノ城_ノ右_ノ大_ノ辨_ノ換_ノ所_ノ廻_ノ勒_ノ所_ノ禮_ノ中_ノ也_ノ之_ノ也_ノ也_ノ

一御歸殿否土州所用人先利益助之亦其由
 前之官出最前之非常之兵力改之
 段深之感誨之古漢說之上亦自身亦賜之
 之亦柄之取之亦成之八年
 一竹股中條有大夫出度先利之這勸也
 一竹股大夫以下六老也之召出清音
 之成之
 一誠一守之其出言清之性頭之中之弟而亦
 幼之戸之其清之其也之新 且出之其篤
 之亦竟之成之十年大者

早春以來上地之穠穠、自之、亦之、
 改之、樞要顯職之、亦方之、切迫之、滿情
 之、費繳之、其書報之奔走之、其怠慢之、勤
 之、其乃共其力、其之、亦之、滿足之、其之、
 亦方之、其之、亦之、亦之、亦之、亦之、
 亦人於之、亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、
 亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、
 一越前之、伊之、友之、四部之、亦之、亦之、
 亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、
 亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、亦之、

以法儀を并報告に表す之を始終其
力改是人の之を道に事

廿七日

早朝大参り今般配為改は法儀に禮
勤政の故に有るに於て其の勤政に

三條右大臣政岩倉大御所政松平中納言
政後藤板垣有是典政河内民部友利

知事土州用人毛利藩の越前用人伊藤右衛門
民部庶務知事澤村備後守一禮使の
内郎

一山川六老美野山に賜ふ種を進呈
一は夜竹股中候お大参り六老甘終と
謀我々の酒と振舞ひの儀
君上より御着二種を賜ふ大陣を極む
二十日

皇帝ヲ 天皇陛下ノ 君上、米澤藩筆、改、如何

一由藤田而宅に特にお禮を在居と
以て上段に案内あり最初より特別に
之を非常な事と改むる今般配の

以清俸を并報告に表す之を始終其
力改是人の之を道に事

廿七日

早朝大参り今般配為改は是迄の如く禮
勤政の故に有るに於て其の如く

三條右大臣殿若倉大御前殿松平中納言
殿後藤板垣有是典殿河内民部友利

知事土州用人毛利藩の越前用人伊藤右衛門
民部庶務知事澤村備後守一禮使等
内郎

一 小川六老を於此に賜ふに願ふ進言

一 昨夜竹股中候より大参り六老甘終と考
謀我々の酒を振舞ひに賜ふ

君より仰者二種を賜ふ大陣を極む
二十日

皇帝神祇官に行事能く知満事神事
多末あり君より之を入

一 由藤四郎宅に特にお禮初面会を求む
以て上段に案内あり最初より特別に厚意
を為す非常なる事盡力改む是今般配の如

無滞古振輝の成る霧君始の重臣と上
下一統を堵改ふ事畢竟も高徳の如く也
運の成る事は不た致さる上也禮十の事をりの家
内敵之甚也海是改也中也事也后也成也
有卿之者之甚也中也降也次也事也其也備也
期成也事也民部在官り行政官之出
意見書之自分引話之事也其也行政
官中之上地也并郷之言也地之例目也
方也殊也上地也成也其也甚也以也般
疑也引起也事也成也中也

深の氣也ハ悠也と嫌疑也避る也事也
舞ハ一意見書也認也行政官也其也并也
全く酒田表出先也仕事也其也根也行政官
上也也抑也邪氣也其也何也之也廉也
以也其也甚也也却也也其也運也也事也
御家之也事也運也也事也其也也
也也其也天也也事也其也也
以也其也民部官也行政官也其也也
書也其也事也也其也也其也也也
其也也也其也也也其也也也

此月、此の如く在る書付の内、所改等

上杉式部中土地勘定儀

天朝より仰出の七、勘別米澤藩原

より仰出の仰付、様々あり、奥羽藩より仰

出の仰付、不の然儀、一、藩に其廢

の拘り、往々場所、國情切迫、其旨

余儀、次、中、其米澤中、出の仰付、ならす

今般酒田民政局より右上地、受取、其趣

以、印、大田衛太郎より、其趣、別、寄、書、御、一、

趣、も、七、米澤中、一、之、高、油、を、米、領、に、付

上、仰、り、難、儀、も、有、一、藩、に、存、在、の、際、係、改、

義、に、懸、然、に、可、有、に、加、て、難、儀、も、盡、力、に、遺、望、

有、之、殊、に、今、般、知、藩、事、は、仰、付、府、藩、料、

一、治、事、仰、付、標、の、由、品、趣、に、付、各、藩、に、

於、て、支、配、地、に、義、に、各、其、便、利、に、隨、ひ、藩、

務、を、舉、げ、仰、付、可、有、に、職、掌、も、詮、未、立、

義、身、厚、く、涉、評、議、に、ら、為、盡、右、上、地、勘、

定、の、儀、別、如、く、其、趣、者、も、無、三、に、出、極、に、評、

定、の、仰、付、に、上、地、七、振、趣、に、仰、付、可、有、然、

一、般、早、く、其、趣、議、に、仰、付、可、有、事、

但餘論別節之以陳述事

右書甘之借雨後之興答河辭也

御不川以是教之禮為之慶の九段坂

多涉改御井梅之痛飲

夜出河之酒之不日有し身大未我未と愛切

法家之商禮金千兩と心之支辨成也

決評

井九の雨

小川六光廻禮 木下邦祇官之菓子傳戴

出頭 池田角人日付の法 池田丹波宮松葉

今より本月より廿日間招免祭九段坂上奉

行方

竹股南宿老出及書得之

晦

招垣卷與上地振起之悦之來即

右土地之振起之種書明治廿六年有書之

之月日在戦會内外に於て能く不能く其口年伊

孫之妻所産滿之梅之枝之法字成

明治廿六年八月廿二日留書山人一誠于時山中在凡

暑氣如燒日中三夏流汗如珠



四十四葉

地所少保精之越前春嶽公之精神
其少之千載不可忘大書告之同志

日玄香山須乃布

